

「創立 80 周年の春を迎えて」

校 長 森角 由希子

春の光が校舎に差し込み、今年も新しい年度が始まります。着任して一年が過ぎ、二年目の春を迎えました。昨年度は、この学校が長い年月をかけて育ててきた雰囲気や日々の営みを、まずはしっかりと受け取る一年でした。校舎を歩くたびに、生徒の素直な笑顔や、先生方が一つひとつの仕事に向き合う丁寧な姿勢、そして地域の皆さまの温かな支えに触れながら、この学校が大切に受け継いできたものを少しずつ実感しました。今年度は、その見えてきたよさを、もう一步「深める」一年にしたいと考えています。

春休みの校舎は静けさに包まれていましたが、その中でひとときわ活気を感じるのが部活動の様子です。グラウンドでは声を掛け合いながら練習に励む姿があり、体育館からはボールの音が響きます。また、校舎の一角からは楽器の音色が流れ、別の教室では一年生を迎える掲示づくりに取り組む生徒たちの姿があり、活動の合間には楽しげな笑い声も響いていました。限られた時間でもよりよいものを目指す生徒の姿に、この学校らしい真面目さと温かさを感じました。こうした営みは、長い歴史の中で受け継がれてきた本校の文化であり、創立 80 周年を迎える今年、その重みを一層深く感じています。

先生方も、生徒の挑戦に寄り添いながら、時に励まし、時に静かに見守り、穏やかに支えてくださっています。こうした積み重ねが学校全体の力となり、未来へつながる確かな土台をつくっていることを改めて実感しました。

4月、進級した生徒たちは、少し背伸びをしたような表情で新しい学年を迎えます。学年が変わるということは、できることが増えるだけでなく、周りを思いやる気持ちや学校全体の一員としての自覚が育つ時期でもあります。今年も、その成長を私たち職員みんなで温かく見守っていききたいと思います。

そして本校は今年、創立 80 周年という大きな節目を迎えます。戦後の混乱期から高度成長期、そして価値観が多様化する現代まで、多くの生徒がこの学校で学び、巣立っていきました。地域の皆さま、保護者の皆さま、歴代の先生方の支えがあって今の学校があります。節目の年だからこそ、これまでの歩みに感謝しながら、これからの学校の歩みを、皆さまと共に丁寧に築いていきたいと考えています。

昨年度を通して感じた本校の強み——生徒の素直さ、先生方の誠実さ、地域の温かさ——を今年度も大切にしながら、創立 80 周年にふさわしい、穏やかで活気のある学校づくりを進めてまいります。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

